

卓越した業績をめざして
—教育経営品質を考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：教育経営品質とは何ですか。

A：(林明夫。以下略)大学や学校、予備校、学習塾など、公立、私立、民間といった設立母体を問わずに、教育機関の経営品質を向上させ、卓越した業績をめざそうというものです。これは、「経営品質賞」の「教育版」といえます。

Q：経営品質賞とは何ですか。

A：財団法人社会経済生産性本部が推進している国家品質賞です。「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」を基本理念に、卓越した業績をめざしたしくみづくり、つまり経営を考えるものです。

開倫塾では、97年より「日本経営品質賞」の地方版である「栃木県経営品質賞」に挑戦、お陰様で2002年度に「知事賞」を受賞いたしました。

Q：学習塾や予備校、私立学校のような教育機関にも、経営品質の考え方は役に立つのですか。

A：大いに役に立つと思います。日本では今のところ、地方版を含めても受賞は開倫塾だけですが、大学では金沢工業大学、教育委員会では三重県や岩手県などが非常に熱心に取り組んでおられます。

日本経営品質賞の母体となったアメリカの「マルコム・ボルドリッジ国家経営品質賞」には、教育機関の審査基準書があります。多くの教育機関がパフォーマンス・エクセレンス(卓越した業績)に向けて挑戦を続け、成果を出し毎年表彰されているようです。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営者は、どのようにして教育経営品質の向上に取り組めばよいとお考えですか。

A：毎年、新年度を迎える4月には心を新たにして、ご自分の組織を顧客的に見直す意味で、まずは教育機関としての「組織プロフィール」をご自身でお書きになられてはいかがでしょうか。

Q : 「組織プロフィール」とは何ですか。

A : 自らの組織の「目的」「社会的使命(ミッション)」「大切にしている価値観」とは何か、顧客・利害関係者・ビジネスパートナーは一体誰なのかを明確にする。誰が意思決定を行い、実際にそのモニタリングは誰がどのように行っているのか。本当の意味での組織はあるのか。その実体は何なのか。何が主要な戦略的挑戦課題で、どのように卓越した業績をめざすのか。自分の地域内での競合、全国レベルでの業界内の競争、外部からの参入をどう認識しているのか。組織的な学習を含む業績向上に向け、どのように組織全体のベクトルを集中させ続けるのか。その評価のしくみをどうつくるのか。このような内容です。

Q : 随分難しそうですね。

A : はい。以上の「組織プロフィール」に基づいて「幹部のリーダーシップ」のあり方、「コーポレートガバナンス(企業統治)と社会的責任」、「戦略の策定と展開」、「学生とステークホルダ(利害関係者)、及び市場の理解、その関係のあり方と満足度の把握・認識」、「組織としての業績の評価・分析、情報の共有(暗黙知の共有)」、「教員、職員の重視、つまり採用、研修、動機付け、能力開発、モチベーションアップ」、業務を基本業務及び支援業務に分けての「プロセスマネジメント、とりわけ業務遂行計画の立案」、これらを PDSA(プラン・ドゥー・スタディ・アクション)で徹底。そして最後に、組織としての業績評価がありますので、難しそうに感じられるかも知れません。しかし、開倫塾は、1997 年からの経営品質賞への取り組みのお陰で、経営についての基軸が定まり、塾生も毎年少しずつ増え続け 6000 名近くにまでなりました。また、自己資本比率もほぼ毎月 40 %を越えるようになりました。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : これからの学習塾経営を考えるときに、例えばまわりの競争相手に合わせて価格をどんどん下げ続ける「価格追求型」をめざして血みどろの戦いの海「レッドオーシャン」の中に入るのか、あるいは独自能力を身につけて顧客にとっての価値を提供し続ける「価値創造型」の企業をつくり、競争相手の少ない「ブルーオーシャン」をめざすのか。私は、教育経営品質で独自能力を強め、卓越した業績をめざしたいと考えます。

皆様はどうお考えですか。

日本経営品質賞についてご関心のある方は、日本経営品質賞委員会アドミニストレーションのホームページをご高覧下さい。 www.jqac.com.

ほとんどの都道府県の生産性本部でも勉強会を行っています。また、「経営品質賞」についての解説書は書店でもお求めになれます。